

授業科目 緩和ケア演習	科目概要・形式 2単位60時間(30 コマ) 演習科目	配当年次 博士前期1年次 後期開講	オンライン参加 可・不可 「下記6, 7 参照」
科目責任者	鳴井 ひろみ		
担当者	鳴井 ひろみ、本間 ともみ、清水 亮、木村 恵美子 (非常勤)、高屋敷 麻理子 (非常勤)、越後 優子 (非常勤)、高橋 利果 (非常勤)、小林 成光 (非常勤)		
1. 科目のねらい・目標 <ねらい> がんがもたらす苦痛症状および苦悩について、症状マネジメントモデルに基づき包括的アセスメントを行い、患者・家族の苦痛を緩和するための適切な介入方法をエビデンスに基づき検討し、薬物療法や心理的支援および理学療法的介入などの包括的アプローチを活用して提供するための能力を高める。また、多職種と協働しながら患者・家族の問題に介入するために必要な高度実践看護師の役割を探究する。 <目標> 1) 症状マネジメントモデルに基づき、がんがもたらす苦痛症状をアセスメントし、症状を緩和するためのケア方法を検討し提供する能力を高める。 2) 補完・代替療法の適切な活用を支援するための方法を理解する。 3) がん患者・家族が直面する倫理的課題と葛藤および倫理調整についての解決方法を理解する。 4) がんがもたらす苦悩についてのアセスメント方法および介入方法を理解し、傾聴面接の演習を通して、苦悩を緩和するためのケアを提供する能力を高める。 5) がん患者・家族への相談支援について分析・評価し、がん相談支援技術の実践能力を高める。 6) 緩和ケアチームにおいて、患者・家族に生じる問題を多職種と協働してアセスメントし介入方法を検討するとともに、チームにおける高度実践看護師の役割を学ぶ。 7) 在宅療養中の複雑な問題を抱える患者・家族に提供されている身体管理や緩和ケアの実際を理解し、在宅療養のための地域連携における高度実践看護師の役割を学ぶ。 8) がん患者のリンパ浮腫への症状マネジメントと理学療法的技術を活用した実践のための知識・技術を修得する。			
2. 授業計画・内容 1回：症状マネジメントモデルとその適用① (鳴井・小林) 【プレゼンテーション】【ディスカッション】 2回：症状マネジメントモデルとその適用② (鳴井・小林) 【プレゼンテーション】【ディスカッション】 3回：がんによる苦痛症状のマネジメント：がん性疼痛(事例検討)① (鳴井・小林) ・がん性疼痛について、事例をもとに症状マネジメントモデルに基づき分析し、緩和ケアの視点から検討し討議する。【プレゼンテーション】【ディスカッション】 4回：がんによる苦痛症状のマネジメント：がん性疼痛(事例検討)② (鳴井・小林) ・がん性疼痛について、事例をもとに症状マネジメントモデルに基づき分析し、緩和ケアの視点から検討し討議する。【プレゼンテーション】【ディスカッション】 5回：がんによる苦痛症状のマネジメント：消化器症状(事例検討) (鳴井・越後) ・消化器症状について、事例をもとに症状マネジメントモデルに基づき分析し、緩和ケアの視点から検討し討議する。【プレゼンテーション】【ディスカッション】 6回：がんによる苦痛症状のマネジメント：呼吸困難(事例検討) (鳴井・越後) ・呼吸困難について、事例をもとに症状マネジメントモデルに基づき分析し、緩和ケアの視点から検討し討議する。【プレゼンテーション】【ディスカッション】 7回：緩和ケアにおける栄養管理① (清水) ・がん患者の栄養状態の評価・栄養サポート 【講義】【ディスカッション】 8回：緩和ケアにおける栄養管理② (清水) ・終末期の栄養状態と栄養サポート、栄養評価・サポート 【講義】【ディスカッション】			

- 9回：補完・代替療法と看護①（鳴井）
 ・補完・代替療法のエビデンス、看護師の役割について文献検討
 【プレゼンテーション】【ディスカッション】
- 10回：補完・代替療法と看護②（鳴井）
 ・経験事例について分析し資料を作成し、看護師の役割について討議する
 【プレゼンテーション】【ディスカッション】
- 11回：がん看護における倫理的問題の調整と看護援助①（鳴井・高屋敷）
 ・倫理的問題解決法について文献検討と実践への活用について
 【プレゼンテーション】【ディスカッション】
- 12回：がん看護における倫理的問題の調整と看護援助②（鳴井・高屋敷）
 ・経験事例を基に倫理検討シートを用いて分析し必要な看護援助を検討し討議する。
 【プレゼンテーション】【ディスカッション】
- 13回：がん看護における倫理的問題の調整と看護援助③（鳴井・高屋敷）
 ・経験事例を基に倫理検討シートを用いて分析し必要な看護援助を検討し討議する。
 【プレゼンテーション】【ディスカッション】
- 14回：終末期がん患者のスピリチュアルペインの看護介入①（鳴井・本間）
 ・経験事例を基にスピリチュアルペインのアセスメントおよび看護介入方法について分析し討議する。
 【プレゼンテーション】【ディスカッション】
- 15回：終末期がん患者のスピリチュアルペインの看護介入②（鳴井・本間）
 ・経験事例を基にスピリチュアルペインのアセスメントおよび看護介入方法について分析し討議する。
 【プレゼンテーション】【ディスカッション】
- 16回：相談支援技術のロールプレイ①（鳴井・本間）
 ・再発・進行期または終末期にあるがん患者およびその家族の相談場面について、各自が経験した事例を分析して資料を作成し、相談支援技術を高めるための方略について討議する。
 【プレゼンテーション】【ディスカッション】
- 17回：相談支援技術のロールプレイ②（鳴井・本間）
 ・再発・進行期または終末期にあるがん患者およびその家族の相談場面について、各自が経験した事例を分析して資料を作成し、相談支援技術を高めるための方略について討議する。
 【ロールプレイ】【ディスカッション】
- 18回：相談支援技術のロールプレイ③（鳴井・本間）
 ・再発・進行期および終末期にあるがん患者およびその家族の相談場面についてロールプレイを実施する。
 ・相談技術の分析・評価を実施し、相談支援技術を高めるための方略を検討する。
 【ロールプレイ】【ディスカッション】
- 19回：相談支援技術のロールプレイ④（鳴井・本間）
 ・再発・進行期および終末期にあるがん患者およびその家族の相談場面についてロールプレイを実施する。
 ・相談技術の分析・評価を実施し、相談支援技術を高めるための方略を検討する。
 【ロールプレイ】【ディスカッション】
- 20回：がん医療の場における緩和ケア フィールドワーク（静岡県立静岡がんセンター）①（鳴井）
 ・緩和ケアチームにおける活動の実際、がん診療施設の緩和ケアチーム活動の見学
 【フィールドワーク】
- 21回：がん医療の場における緩和ケア フィールドワーク（静岡県立静岡がんセンター）②（鳴井）
 ・緩和ケアチームにおける活動の実際、チームにおける高度実践看護師の役割
 【フィールドワーク】
- 22回：がん医療の場における緩和ケア フィールドワーク（静岡県立静岡がんセンター）③（鳴井）
 ・緩和ケアチームにおける活動の実際、緩和ケアのチーム体制と多職種との協働のあり方
 【フィールドワーク】
- 23回：がん医療の場における緩和ケア フィールドワーク（静岡県立静岡がんセンター）③（鳴井）
 ・緩和ケアチームにおける活動の実際
 緩和ケアのチーム体制と多職種との協働のあり方、がん看護専門看護師とのディスカッション
 高度実践看護師の役割・機能についての検討
 【フィールドワーク】
- 24回：地域在宅医療の場における緩和ケア フィールドワーク（未来かなえ訪問看護ステーション「すみちゃん」）①
 （高橋・鳴井）
 ・訪問診療・訪問看護施設でのケアに同行し、在宅療養中の複雑な問題を抱えるがん患者・家族に提供されている在宅での身体管理や緩和ケアについて学ぶ。
 【フィールドワーク】

<p>25 回：地域在宅医療の場における緩和ケア フィールドワーク（未来かなえ訪問看護ステーション「すみちゃん」）② （高橋・鳴井）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問診療・訪問看護施設でのケアに同行し、在宅療養中の複雑な問題を抱えるがん患者・家族に提供されている在宅での身体管理や緩和ケアについて学ぶ。 <p>【フィールドワーク】</p> <p>26 回：地域在宅医療の場における緩和ケア フィールドワーク（未来かなえ訪問看護ステーション「すみちゃん」）③ （高橋・鳴井）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療・ケアを通して、地域医療連携における多職種協働・連携の取り組みについて学ぶ。 ・地域医療連携における多職種協働・連携のあり方について高度実践看護師の役割・機能から検討する。 <p>【フィールドワーク】</p> <p>27 回：地域在宅医療の場における緩和ケア フィールドワーク（未来かなえ訪問看護ステーション「すみちゃん」）④ （高橋・鳴井）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療・ケアを通して、地域医療連携における多職種協働・連携の取り組みについて学ぶ。 ・地域医療連携における多職種協働・連携のあり方について高度実践看護師の役割・機能から検討する。 <p>【フィールドワーク】</p> <p>28 回：リンパ浮腫を患っているがん患者における、緩和期におけるケアの症状マネジメントと実践法①（木村）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん治療に関して発生するリンパ浮腫の病態生理、症状マネジメント、アセスメント法【演習】 <p>29 回：リンパ浮腫を患っているがん患者における、緩和期におけるケアの症状マネジメントと実践法②（木村）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和期におけるリンパ浮腫への圧迫療法（弾性包帯、複合的ドレナージの適用判断）、およびドレナージ実技演習【演習】 <p>30 回：リンパ浮腫を患っているがん患者における、緩和期におけるケアの症状マネジメントと実践法③（木村）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和期におけるリンパ浮腫への圧迫療法（弾性包帯、複合的ドレナージの適用判断）、およびドレナージ実技演習【演習】
<p>3. 教科書、参考書</p> <p>〈参考書〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ編：がん看護コアカリキュラム日本版、手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア、医学書院、2017年 ・Linda H. Eaton 他著、鈴木志津枝他監訳：がん看護 PEP リソース 患者アウトカムを高めるケアのエビデンス、医学書院、2013年 ・Robert Twycross 他著、武田文和監訳：トワイクロス先生の がん患者の症状マネジメント、第2版、医学書院、2010年 ・鶴若麻理他編：看護師の倫理調整力 専門看護師の実践に学ぶ、第2版、日本看護協会出版会、2022年 ・Mary Fran Tracy 他著、中村美鈴他監訳：高度実践看護 統合的アプローチ、第2版、へるす出版、2020年 ・井部俊子他監：専門看護師の思考と実践、医学書院、2015年 他、講義の中で適宜紹介する。
<p>4. 成績評価方法</p> <p>授業への取り組み状況 20%、プレゼンテーション・質疑応答の内容 50%、「緩和ケアチームにおける多職種との協働のあり方と高度実践看護師の役割」に関するレポート 30%で総合的に評価する。</p>
<p>5. 受講要件</p> <p>「緩和ケア論」を履修済みの者、CNS（専門看護師）コースががん看護の学生は必修</p>
<p>6. 社会人学生に対する配慮</p> <p>オンライン授業等は相談があれば個別に対応する。オンライン授業の場合はリモートでの同時双方向型授業を行う。</p>
<p>7. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題内容について文献検討を行い、プレゼンテーション資料を作成して臨むこと。 ・状況に応じて Webex meeting または Zoom を用いた遠隔講義を実施する。 ・オンデマンドの実施不可